小特集

消防本部新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症患者が発生した際に、救急体制の最前線で活躍する消防の取組みを紹介します。

❓消防課警防係☎768・1022

感染防護服を装備した救急隊員

消防本部のコロナ禍における体制

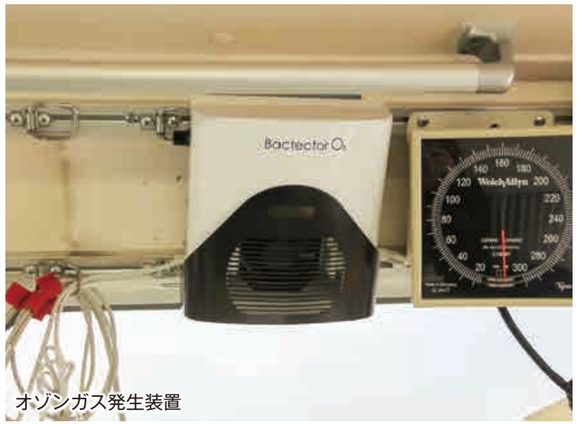
新型コロナウイルス感染拡大が続き、いまだ収束が見通せない状況となっています。全国での1日の新規感染者数は昨年6月頃に一度減少したものの、7月上旬からは第2波の流行が始まり、11月中旬頃から発生した第3波の流行は、第2波のピークを上回ったといわれています。今後も長期的な感染拡大が懸念されるなか、救急業務体制の重要性が更に高まっています。

新型コロナウイルス感染症により救急需要が増加した際に、平時より少ない救急職員で対応を迫られることが求められます。救急需要の突然の増加、救急隊員の人員減を前提とする救急業務体制の維持について、対策を行う必要があります。市消防本部の対策として、勤務体制を2班から3班体制にし、班員間の業務の効率化、接触機会の減少を目的に、消防力を維持しつつ感染リスクの軽減を図っています。今後も、状況に応じた適切で迅速な対応が重要となります。

市の取組みについて

市消防本部では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、迅速な対応ができるさまざまな救急体制を整えています。救急隊は、全ての救急出動において、感染防護服、手袋、ゴーグルまたはフェイスシールド、ウイルスの侵入を防ぐ高性能マスク等を着用しています。救急車内においても、救急隊員や救急車内の物品が感染源とならないように、傷病者を医療機関等に搬送後は、隊員及び車内の消毒作業を徹底しています。また、救急搬送時の二次感染を防止することを目的として、車両除染システムであるオゾンガス発生装置を救急車に設置し、感染しにくい環境づくりに努めています。更に、消防本部での導入は県内では初となる陰圧式搬送機材アイソレーターを導入しました。この機材により、周囲にウイルスを拡散させることなく、隊員の二次感染を防ぎながら安全かつ早急に搬送することができます。救急車を利用するかたと救急隊員の感染防止のため、継続した感染対策を行い、市民の皆さんが安心・安全に暮らせるように努めていきます。

救急車内に取り付けたアイソレーター



オゾンガス発生装置

乳幼児健康診査前の消毒の様子

継続的な感染対策を

蓮田市消防本部
消防次長　新井（あらい）　智（さとし）

消防本部では、普段の生活でも朝晩の体温測定等の体調管理及び消防本部で新型コロナウイルス感染症が発生した場合の市民の皆さんへの影響をじゅうぶん認識し責任のある行動を心がけています。新型コロナウイルス感染症では多くの尊い命が失われ、地震等の大規模災害と同じ災害と考えています。引き続き、手洗い・咳エチケット・換気・三密の回避等の新しい生活様式とともに、災害の基本である「自分の命は自分で守る」を意識した行動をお願いできればと思います。消防本部としましても、市民の皆さんに寄り添い、不安な気持ちを少しでも和らげるよう対策を行っていきます。今後も常にアンテナを高くし、情報収集、状況把握、検証に努めてまいります。市役所、医師会、保健所等の関係機関と連携し、できることをしっかりと行っていきたいと考えています。感染症対策を忘れることなく、ご自身・たいせつな人・ご家族を新型コロナウイルス感染症から守りましょう。

出動時の流れ

新型コロナウイルス感染症に感染したかたやその家族の安全を守ること、救急隊員の二次感染を防ぐことが重要となります。準備から出動・搬送、消毒時のそれぞれの状況をお伝えします。

準　備

出動依頼があった際、２人１組になり、感染防止用品の準備をします。

感染防護服、ゴーグル、マスク及び手袋を装備し、出動体制を整えます。

出動・搬送

現場に到着したらアイソレーターを取り出し、感染したかたの元まで運びます。

感染したかたをアイソレーターに運び、隔離して搬送します。

消　毒

消防署に帰署後は車内及び使用機材の消毒を隅々まで丁寧に行います。

消毒を隊員同士で接触がないように行い、使用した感染防護服等は密封し廃棄します。

PCR検査に伴う 市民送迎サービスの運用開始

市は、ネッツトヨタ東埼玉株式会社から、新型コロナウイルス感染症対策のための特殊な改造を施した飛沫（まつ）循環抑制車両の無償貸与を受け、PCR検査センター等への移動の際に自家用車での来場が困難なかたを対象に、送迎サービスを昨年10月26日から開始しました。活動実績は12月までで15件ありました。車両の活用により、感染リスクを抑えながら安全に送迎することができます。

エアコンの設定、ドアガラスの開閉により、後方の空気が前方に循環しないように調節し、運転者への感染リスクを低減します。

フロント席とリア席の間に、ビニールシートのセパレータを取り付け、飛沫による感染を防止します。

ストレッチャー取付式簡易アイソレーター導入

アイソレーターとは、新型コロナウイルス感染症に感染したかたやその疑いのあるかた等を救急搬送する際に使用します。周囲にウイルスを拡散させることなく、救急隊員の二次感染を防ぎながら、安全で早急に治療を受けられるように一時的に隔離するための搬送機材です。

市消防本部本署では３台のアイソレーターを導入し、１台は組み立てた状態で配備し、他の２台は救急車に積載した状態で必要に応じて現場で組み立てて活用しています。昨年８月26日から運用を開始し、12月24日時点で16件の使用実績があります。

導入によるメリット

- 感染したかたやその疑いのあるかた、同乗される家族のかたの安全な搬送
- 活動に携わる救急隊員の感染リスクの軽減
- 搬送に使用した救急車の消毒作業にかかる負担の軽減による、次の出動時までの準備時間の短縮

組み立て前

ビニールカバーやフィルター等の部品で構成されています。

組み立て後

救急車のストレッチャーに部品を取り付け、搬送が可能な状態となります。